

## 4.4 ICT機器の配置

遠隔合同授業を実施する際は、両校の教員や児童生徒の視線を一致させるなどして、授業の一体感を創出することが重要です。そのためには、ICT機器の配置についても検討することが必要です。

実証校でみられた機器配置を基に、ICT機器を配置する際の考え方と、それに基づく機器配置のポイントについて、以下に示します。

### 配置の考え方① 資料の提示場所と視線

教員の位置と資料の位置が離れていると、資料を提示するたびに児童生徒の視線が大きく移動して、資料を見失うことにもつながるため、教員や黒板の近くで資料が提示されることが望ましい。

#### ▶ 機器配置の例

デジタル資料を提示する場合は、教室前方に配置した大型ディスプレイで共有して、児童生徒の視線が大きく動かないようにする。



### 配置の考え方② 教員と児童生徒の視線の一致

授業進行を担当する教員が、自校と相手校の児童生徒を同時に指導するためには、両校の児童生徒から見て、教員が正対していることが望ましい。

#### ▶ 機器配置の例①

教室後方に大型ディスプレイを配置すると、教員は両校の児童生徒を同時に見ながら授業を進められる。

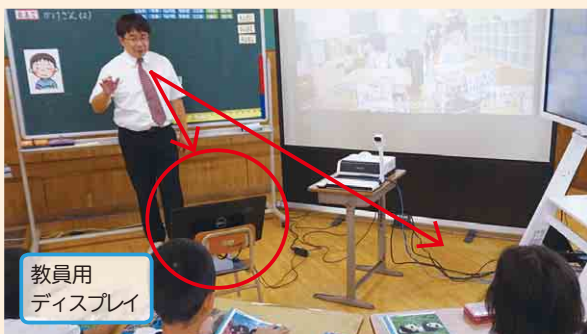
また、教員を写すカメラを児童生徒を映すディスプレイの近くに配置することで、相手校の児童生徒にとって、教員がこちらを向いているように見える。

▶ 教室後方に大型ディスプレイを配置した教室



#### ▼ 機器配置の例②

前方にある大型ディスプレイで教員が相手校を確認しようとする時、自校の児童生徒に背を向けることになる。そこで、教員の正面にディスプレイを設置し、大型ディスプレイと同じ映像を表示することで、教員・児童生徒どちらからも、相手校の様子が確認できる。



▲ 教員の前に、相手校の様子を確認するためのディスプレイが設置されている

## 配置の考え方③ 児童生徒同士の交流時の視線

両校が一体となって授業に取り組むためには、授業中に互いの姿を確認できることが望ましい。また、児童生徒同士で話し合い活動などの交流を行う場合は、互いの視線が一致している必要がある。

### ▼ 機器配置の例①

大型ディスプレイなどで相手校の様子を表示することで、児童生徒から相手校の様子を常時確認できるようになり、同じ授業を受けているという一体感が生まれる。



▲教室前面に設置された2台の大型ディスプレイで、相手校の教員や板書と、教室の様子を表示している



▲教室側面の大型スクリーンに相手校の教室側方からの映像を表示している

### ▼ 機器配置の例②

教室後方に大型ディスプレイを配置している場合、児童生徒が相手校と交流をする際は、大型ディスプレイの方に振り向いて交流した。



▲教室後方にある大型ディスプレイの方を向きながら、児童同士が話し合っている

### ▼ 機器配置の例③

教室前方に大型ディスプレイを配置して、相手校の教室の様子を表示する場合、児童生徒が相手校と交流をする際は、前を向いたまま交流できる。ただし、教員を撮影するカメラが教室後方にある場合は、交流する児童生徒を正面から撮影するために、カメラの向きを変えるか、児童生徒用のカメラを増設する必要がある。



▲教員を写すカメラと児童を写すカメラの両方が設置されている



▲児童が教室前方に出て発表を行う場合は、ICT支援員がカメラを操作して児童の様子を捉える

## 4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

## 4.2

導入する目的やコンセプトの検討

## 4.3

ICT環境導入の際の検討項目

## 4.4

ICT機器の配置

## 4.5

ICT環境の運用



## 4.4.1 ICT環境配置例

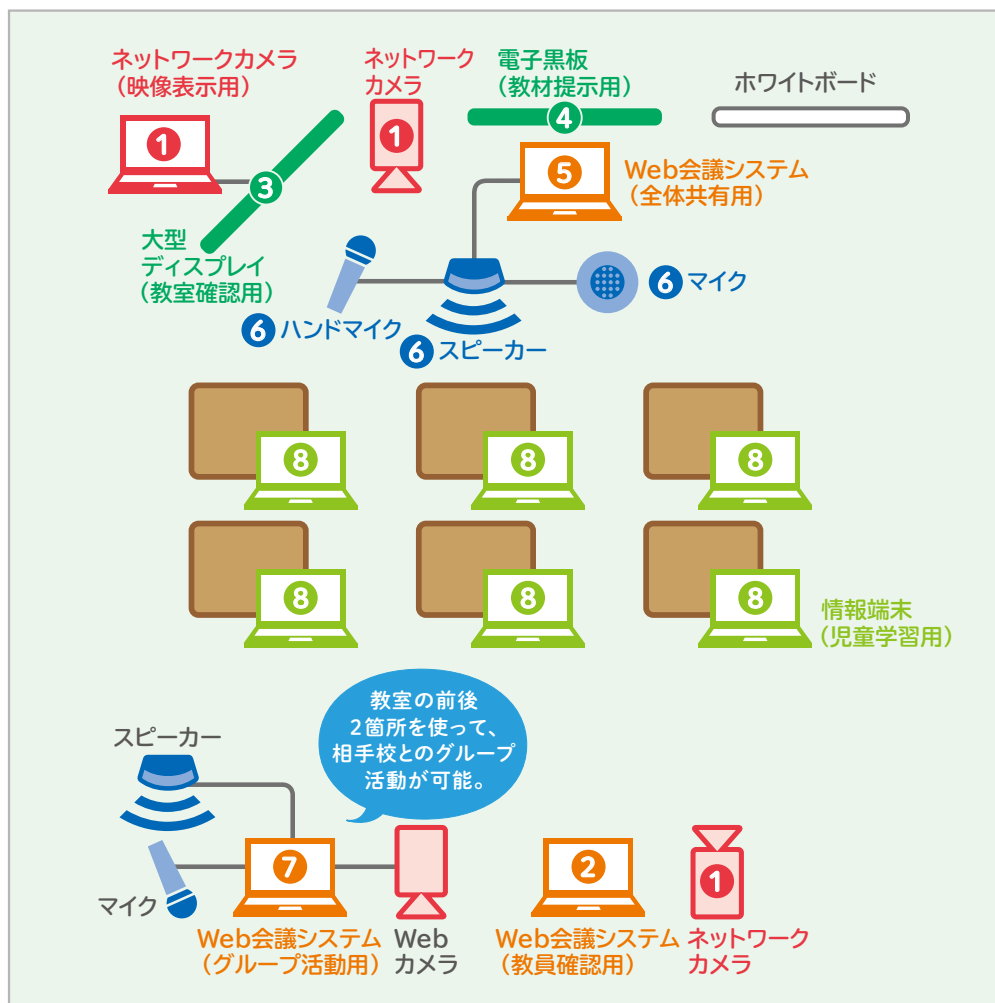
### 1 環境構成例

実証校 ▶ 喬木村立喬木第二小学校：アクティブラーニング教室

#### ICT活用のポイント

共有したい内容に応じて、ネットワークカメラとWeb会議システムを併用。  
そのほか、グループ活動専用のWeb会議システムも準備。

#### 教室内の機器配置



#### ① ネットワークカメラ（前後）

- ① 相手校の教室
- ② 相手校の教員・板書
- ③ 自校の教員・板書
- ④ 自校の教室の様子を表示。

ネットワークカメラは、教室前方と後方に計2台設置。



#### ② Web会議システム（教員確認用）

教室後方に設置されたPCにも相手校の教室の映像を表示。自校の教員が指導する際の確認用。

## 教室の風景

③ 大型ディスプレイ  
(教室確認用)

## ④ 電子黒板 (教材提示用)

## ⑤ Web会議システム (全体共有用)

デジタル教材を提示。操作は教員用PCで行う。教員用PCではWeb会議システムが稼働しており、画面共有機能を使って、相手校にも同じ画面が投影されている。



教室前方のWeb会議システムを使ってグループ活動を行う際は、ハンドマイクを使用し、ほかのグループの話し声が入らないようにする

## ⑥ マイク・スピーカー

教室前面にマイク・スピーカーを配置。適正規模校の側ではマイクを4台連結し、收音範囲を拡張する。



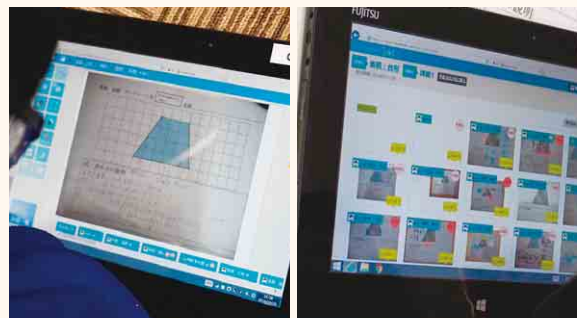
## ⑦ Web会議システム (グループ活動用)

教室後方には、グループ活動用に独立したWeb会議システムも準備されており、相手校の児童とグループ活動を行うことができる。



## ⑧ 情報端末 (児童学習用)

授業支援システムを使って紙のワークシートを撮影して、ほかの児童(相手校含む)と共有する。グループ活動では、発表者の児童の画面を見ながら、発表を聞く。



## 4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

## 4.2

導入する目的やコンセプトの検討

## 4.3

ICT環境導入の際の検討項目

## 4.4

ICT機器の配置

## 4.5

ICT環境の運用

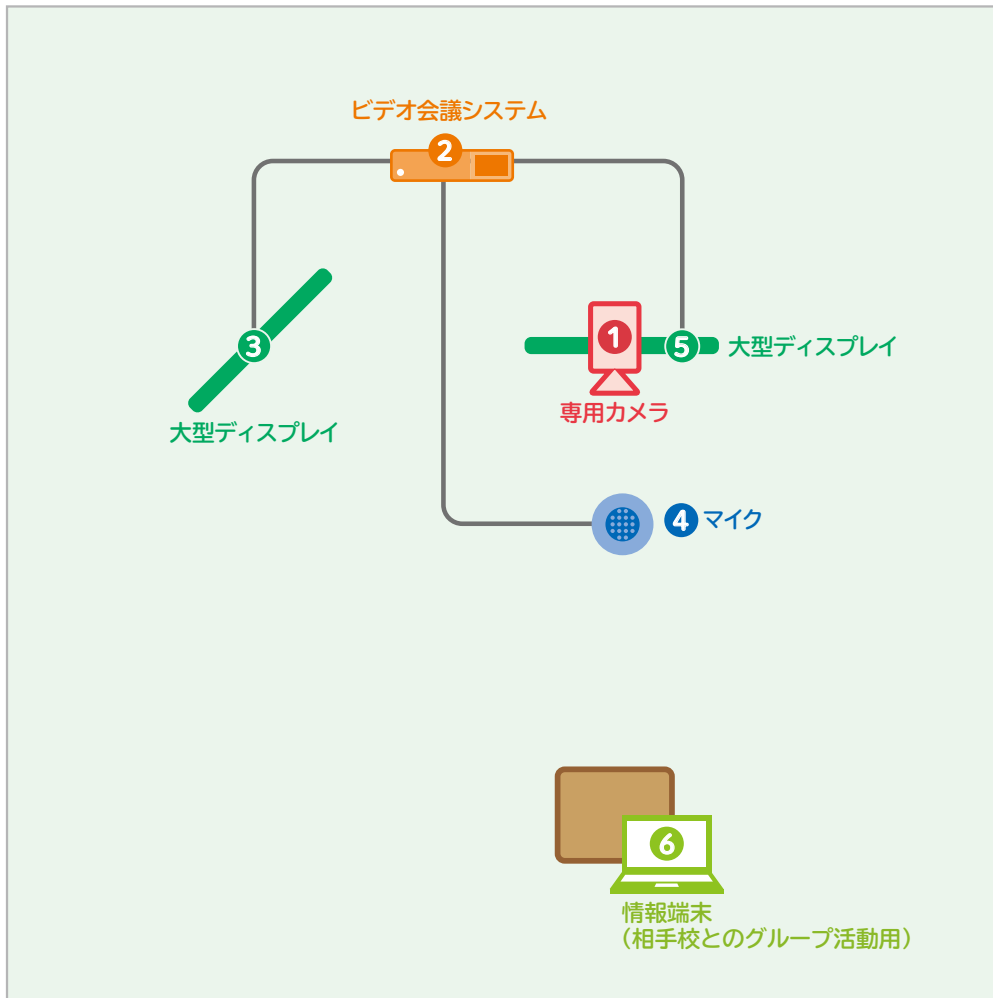
## 2 環境構成例

実証校 ▶ 長崎市立高島中学校：2年教室

### ！ ICT活用のポイント

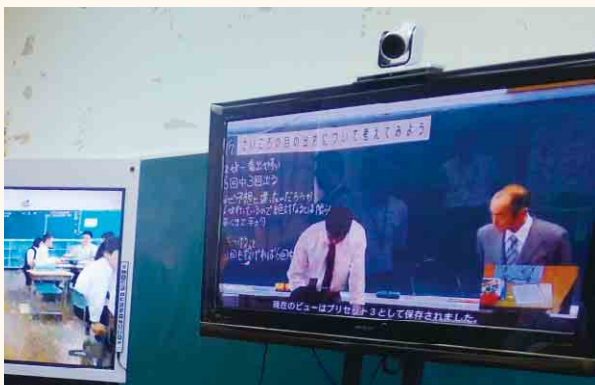
相手校のカメラをリモコンで遠隔操作し、見たい画面を映すことができる環境。

### ..... 教室内の機器配置 .....



### ① 専用カメラ

ビデオ会議システム付属の専用カメラ。



リモコン操作でアングル・ズームの調整が可能。  
相手校のカメラも操作できる。

#### 専用カメラのリモコン





教室の風景



②ビデオ会議システム

③大型ディスプレイ

ビデオカメラで撮影している相手校の教室の様子を映す。グループワークの際にはアングルを変え、自校の生徒と同じグループの生徒の姿を映す。



④マイク

マイク上部にあるボタンでON/OFF切り替えが可能。個人学習の際にはOFFにする。



▲ミュート中



▲收音中

⑤大型ディスプレイ

主に授業進行を受け持つ教員と板書を映している。授業の学習場面にに応じて、リモコン操作で、相手校のカメラのアングル・ズーム調整を行う。



⑥情報端末（相手校とのグループ活動用）

生徒は一人1台情報端末を使用しており、情報端末に書き込んだ内容を授業支援システムを用いて、両校で共有する。



相手校では、情報端末の画面を大型ディスプレイに表示して共有している。自校では、その大型ディスプレイの画面にズームして共有している。



4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

4.2

導入する目的やコンセプトの検討

4.3

ICT環境導入の際の検討項目

4.4

ICT機器の配置

4.5

ICT環境の運用

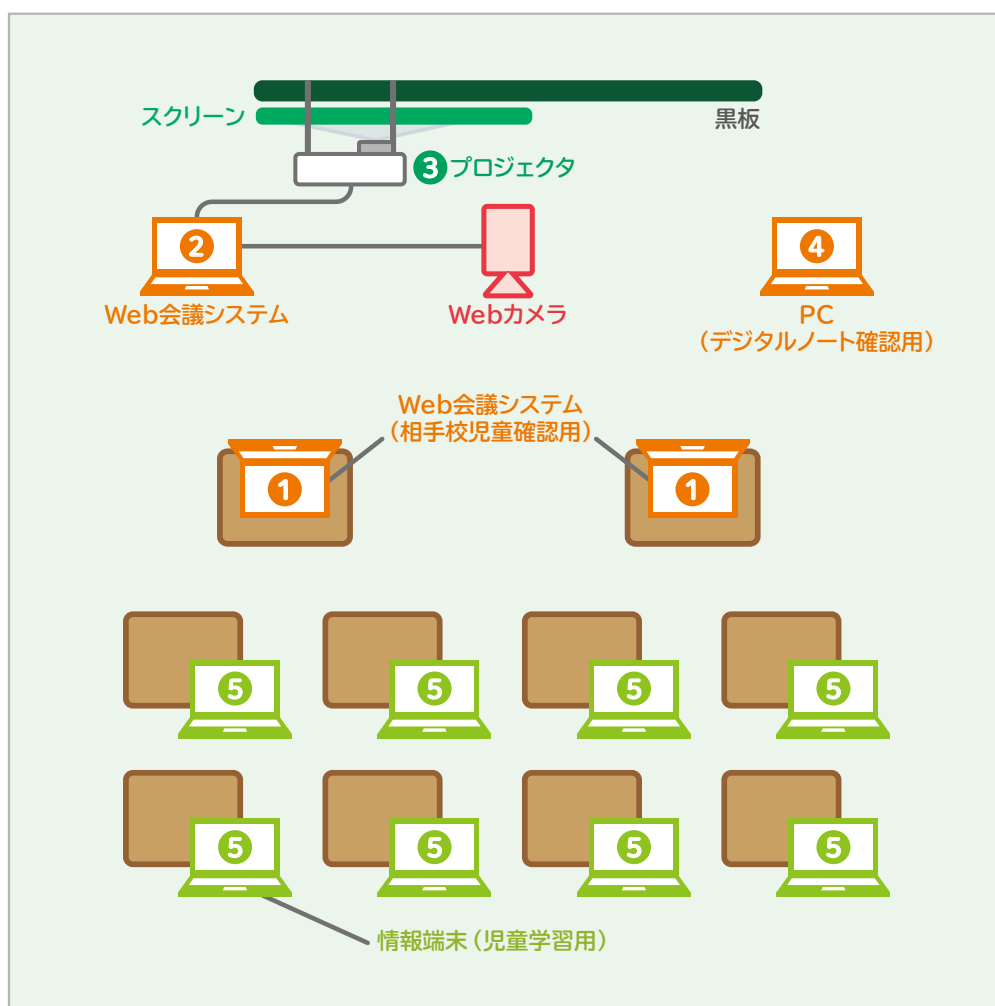
### 3 環境構成例

実証校 ▶ 三好市立山城小学校：5年教室

#### ICT活用のポイント

大型ディスプレイによる映像共有を行わず、相手校の児童それぞれが情報端末のWeb会議システムを利用。

#### 教室内の機器配置



#### ① Web会議システム (相手校児童確認用)

相手校の児童一人一人の姿が情報端末に表示されており、教員からは、自校児童と同じ感覚で相手校児童の様子を見ることができる。



情報端末のカメラには、外付けの広角レンズがついており、相手校の児童から見た視野を広くしている



教室の風景



②Web会議システム

相手校に自校の教室風景を共有している。



③プロジェクタ

デジタル教材を投影する。Web会議システムの画面共有機能を使って、相手校にも同じ画面が表示されている。



④PC (デジタルノート確認用)

相手校児童のワークシートの内容が表示されている。相手校児童の学習状況は、この画面を見て把握する。



相手校の児童とグループ活動をする際は、相手校の児童が映っている情報端末の向きを変え、自校のグループを写して交流する。



⑤情報端末 (児童学習用)

児童は一人1台情報端末を使用しており、情報端末に配信されたワークシートに書き込んで、課題に取り組んでいる。



4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

4.2

導入する目的やコンセプトの検討

4.3

ICT環境導入の際の検討項目

4.4

ICT機器の配置

4.5

ICT環境の運用



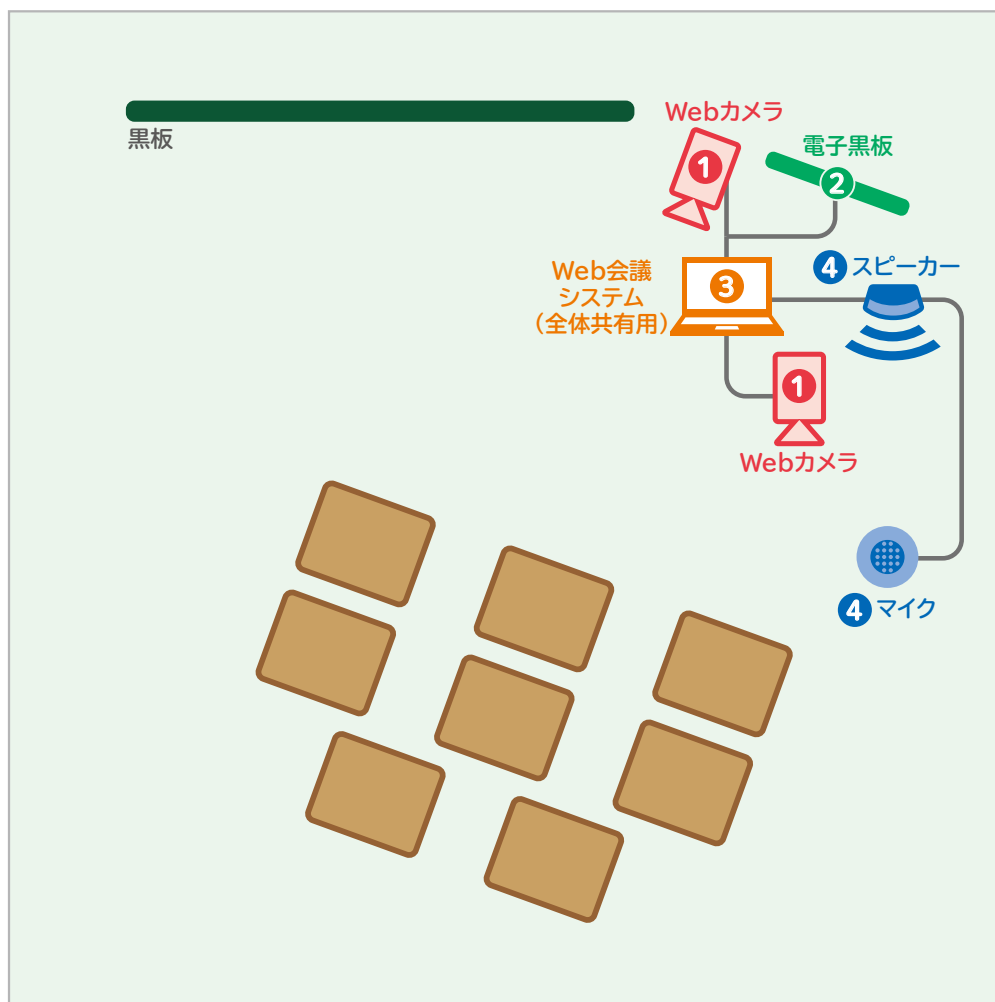
## 4 環境構成例

実証校 ▶ 白川町立佐見中学校：特別活動教室

### ！ ICT活用のポイント

どんな教員でも一人で遠隔合同授業を行える、操作が簡単でシンプルなICT環境。

#### ..... 教室内の機器配置 .....



#### ① Webカメラ

普段は電子黒板上部のWebカメラを使って教室全体の様子を写し、自校の生徒が発表する際は、生徒の目線の高さに合わせた発表用のWebカメラを使用する。切り替えは、教員がWeb会議システムを操作して行う。

◀ Web会議システムを操作する教員

教室の風景



4.1 遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

4.2 導入する目的やコンソフトの検討

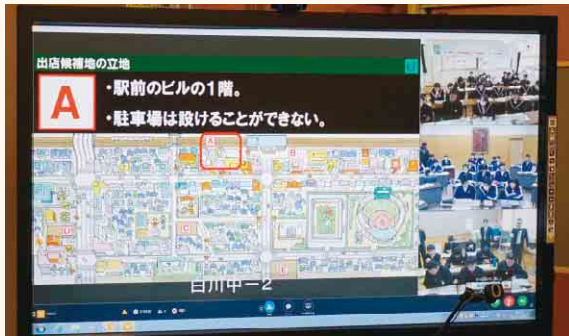
4.3 ICT環境導入の際の検討項目

4.4 ICT機器の配置

4.5 ICT環境の運用

③Web会議システム (全体共有用)

Web会議システムの画面共有機能を使って、発表資料を共有する。



④マイク・スピーカー

マイクは生徒が発表する時の立ち位置の近くに置き、教室全体の音を拾う。



白川町では、3校が合同で授業を行うことも多い。その場合、電子黒板上にはそれぞれの教室の様子を表示している。遠隔会議システムの機能により、今話している声を基に、自動的に話している人のいる教室がアップで表示される。



相手校の発表に対して意思表示をするため、○と×が使われている。





## 5 環境構成例

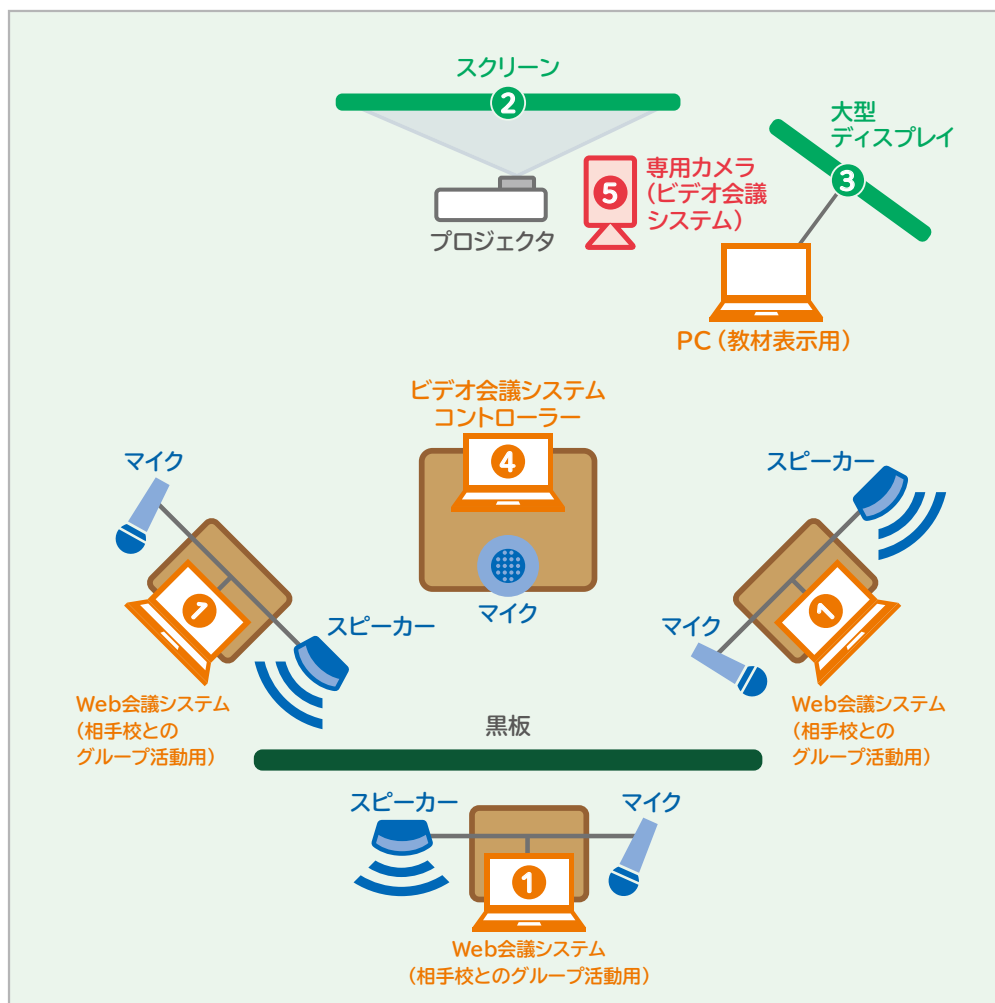
実証校 ▶ 高森町立高森東中学校：多目的ホール

### ICT活用のポイント

相手校の専用カメラを生徒がコントローラーで遠隔から操作し、見たい箇所を画面に映すことが可能。

グループ活動の際は、別に用意したWeb会議システムを使用。

### 教室内の機器配置



### ① Web会議システム (相手校とのグループ活動用)

相手校とグループ活動を行うために、Web会議システムの入ったPCが3セット(一人1台ずつ)準備されている。グループ活動を行う際は相手校のグループの中に自校の生徒が一人ずつ参加する。グループ活動の中で意見を交換するために、ホワイトボードが使われる。

教室の風景



②スクリーン

③大型ディスプレイ

①Web会議システム  
(相手校とのグループ  
活動用)

④ビデオ会議システムコントローラー

相手校側の専用カメラのアンブルやズームは、自校の生徒がコントローラーで操作できる。スクリーンに投影する画面を、授業の内容に応じて、相手校の教員、黒板、教室の様子などに調節している。



⑤専用カメラ(ビデオ会議システム)



▲全体に対する発表は、専用カメラに近づいて行う



▲自校の教員が説明する時は、教室背面にある可動式黒板を使用する

4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

4.2

導入する目的やコンセプトの検討

4.3

ICT環境導入の実際の検討項目

4.4

ICT機器の配置

4.5

ICT環境の運用



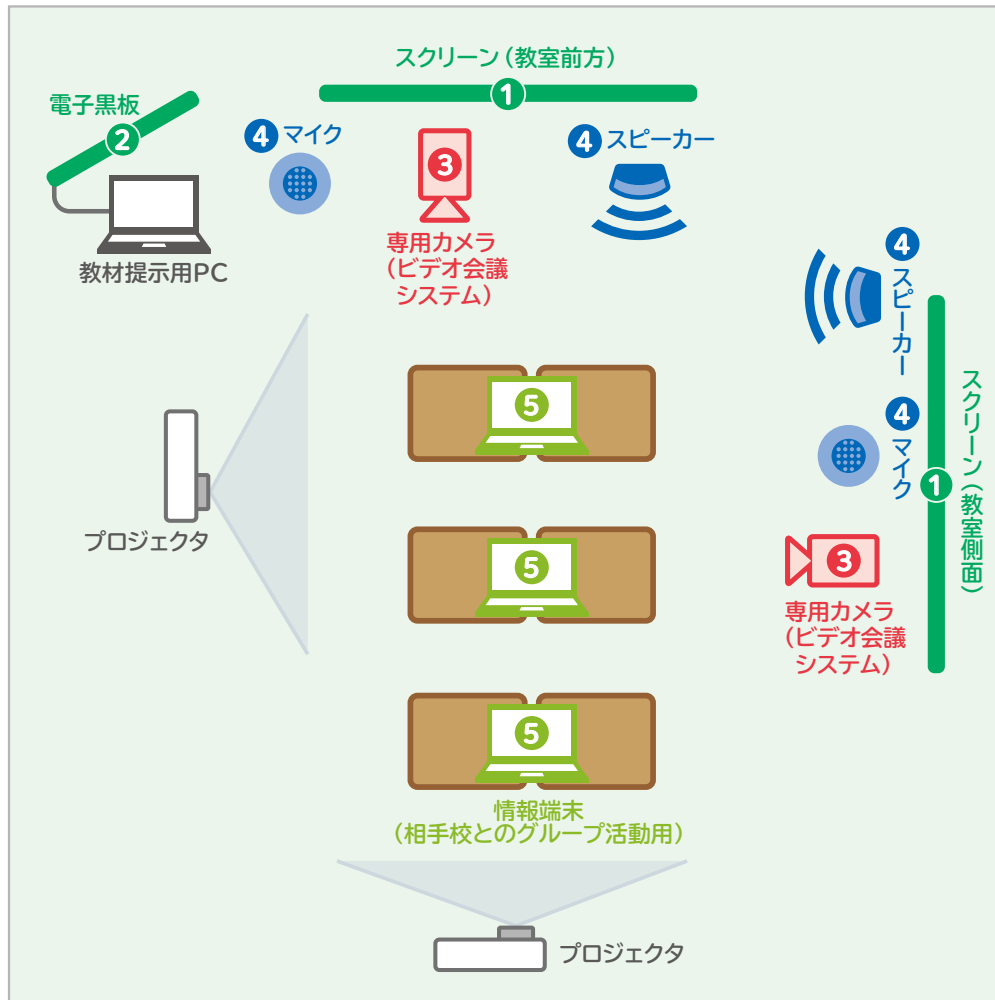
## 6 環境構成例

実証校 ▶ 西条市立田滝小学校：5・6年教室

### ICT活用のポイント

実物大スクリーンを用いて、双方の教室を1つに連結した空間。

#### 教室内の機器配置



#### ①スクリーン（教室前方・側面）

相手校の教員と黒板を教室前方に、相手校の教室を側面から等身大で投影し、あたかも隣で授業を受けているような教室空間としている。



教室の風景

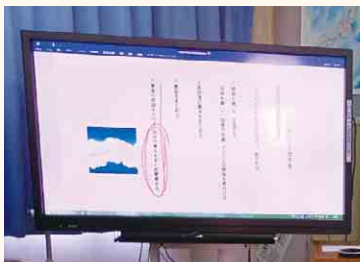


① スクリーン（教室前方）

① スクリーン（教室側面）

② 電子黒板

電子黒板に表示されたデジタル教材は、PC上で稼働しているWeb会議システムを通じて、相手校とも共有できる。



③ 専用カメラ（ビデオ会議システム）

教室前方と側面に1台ずつ設置し、専用カメラで教室の様子を2方向から撮影する。



④ マイク・スピーカー

マイク・スピーカーを、教室前方と側面の両方に設置して、相手校と違和感なくコミュニケーションを取れるようにする。



⑤ 情報端末（相手校とのグループ活動用）

児童はペアになって、情報端末越しに相手校の児童のペアとグループを作り、意見交換を行う。



情報端末を使ったグループ活動ではヘッドセットを使用する。音声分岐ケーブルを使うことで、2人同時にヘッドセットを使用する。



4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

4.2

導入する目的やコンセプトの検討

4.3

ICT環境導入の際の検討項目

4.4

ICT機器の配置

4.5

ICT環境の運用



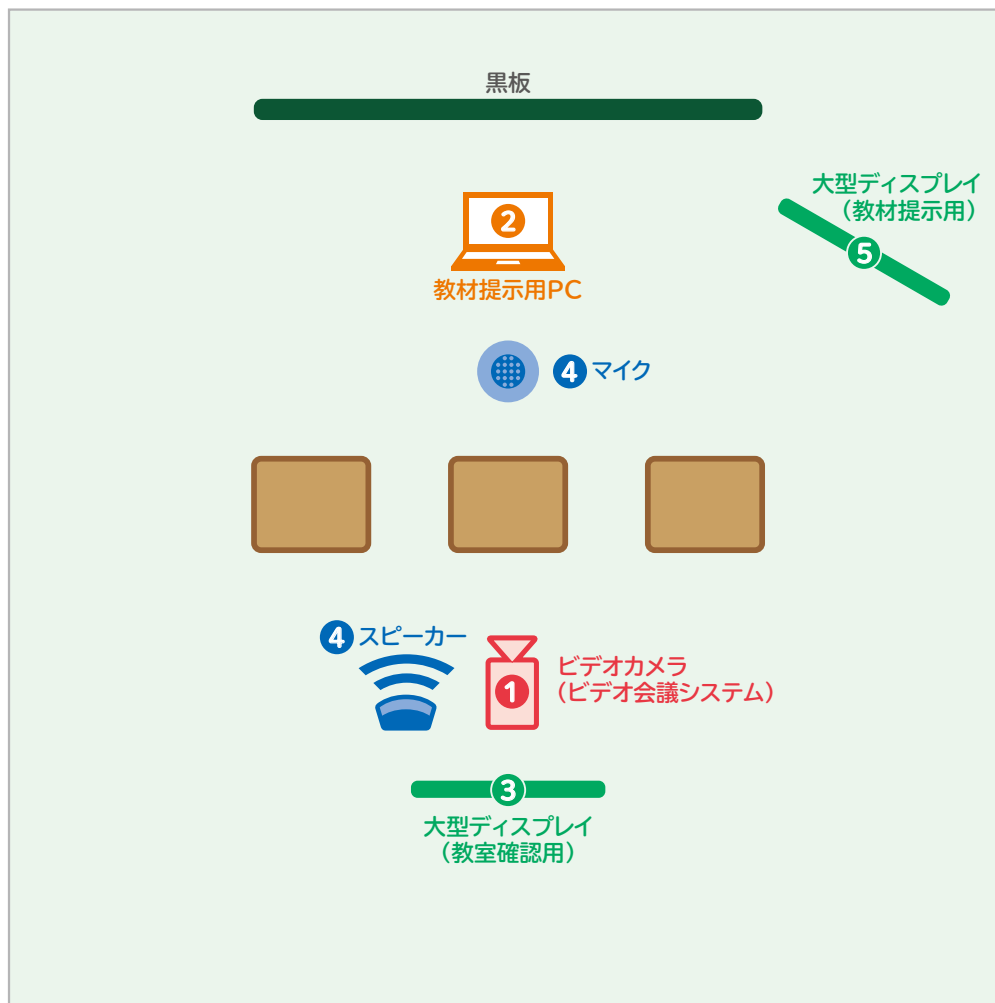
## 7 環境構成例

実証校 ▶ 萩市立佐々並小学校：4年教室

### ICT活用のポイント

教員と相手校の児童の視線を一致させるため、大型ディスプレイを教室の背面に設置。リモコンを使い、教員一人でビデオカメラの角度を調整可能。

#### 教室内の機器配置



#### ①ビデオカメラ (ビデオ会議システム)

通常は主に教員や黒板を撮影している。自校の児童が発表する際は、発表する児童がビデオカメラの方を向いて話す。

板書に注目させたい時などは、授業を進行する教員が、リモコンでズーム操作を行う。



教室の風景



ビデオ  
会議  
システム

②教材提示用PC

③大型ディスプレイ（教室確認用）

教室後方の大型ディスプレイに相手校の様子を表示する。授業を進行している教員にとって、自校の児童と相手校の児童が同じ方向にいますので、視線が合わせやすい。



④マイク・スピーカー

スピーカーを相手校の様子が映っている大型ディスプレイの近くに設置することで、音と映像の方向を一致させている。



⑤大型ディスプレイ（教材提示用）

教材提示用PCの画面を遠隔会議システムを経由して表示している。相手校にある大型ディスプレイにも同じ画面が表示されている。



相手校は教室前方から撮影されているため、相手校の机の前面に児童の名前を貼り付けている。自校は後方から撮影されているため、椅子の後ろに児童の名前を貼り付けている。



相手校



自校

4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

4.2

導入する目的やコンソフトの検討

4.3

ICT環境導入の際の検討項目

4.4

ICT機器の配置

4.5

ICT環境の運用



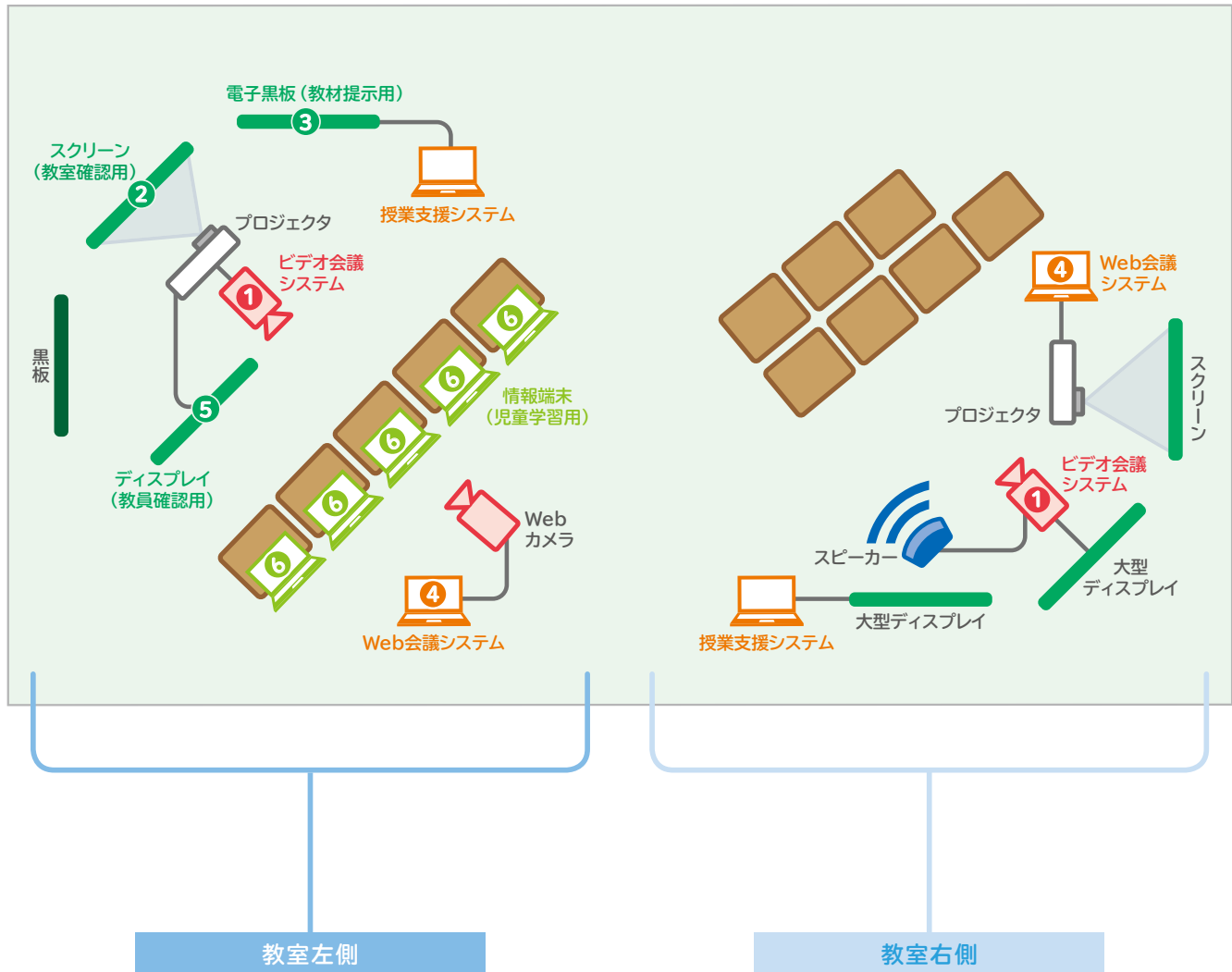
## 8 環境構成例

実証校 ▶ 徳之島町立母間小学校：多目的室

### ICT活用のポイント

広い空間の左右に独立したICT環境を整備し、2校の複式学級が学年ごとに遠隔合同授業を実施。

### 教室内の機器配置



複式学級を構成するそれぞれの学年が、別のビデオ会議システムが配置されている教室の左右に分かれて授業を行う。教員は通常の複式指導と同じように学年間の「わたり」を行いながら指導する。

## 教室左側のICT環境

### ①ビデオ会議システム



### ②スクリーン (教室確認用)

相手校の教室の様子を表示する。

### ③電子黒板 (教材提示用)

デジタル教材や、授業支援システムを通じて、児童の情報端末の一覧画面を共有する。

### ④Web会議システム

自校の教員の姿や板書の内容を相手校と共有するため、ビデオ会議システムとは別に、Web会議システムを利用する。



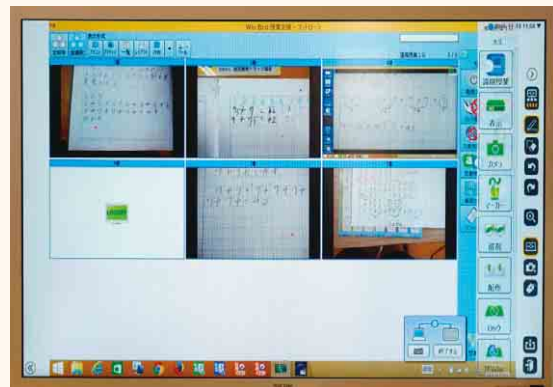
### ⑤ディスプレイ(教員確認用)

教員が自校の児童に正対しながら、相手校の児童も同時に確認できるように、プロジェクタに投影された相手校教室の映像を別のディスプレイにも表示する。



### ⑥情報端末(児童学習用)

児童は情報端末を使って、自分の考えを共有する。授業支援システムにより、相手校も含めた児童の考えが電子黒板上で一覧表示される。



#### 4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

#### 4.2

導入する目的やコンセプトの検討

#### 4.3

ICT環境導入の際の検討項目

#### 4.4

ICT機器の配置

#### 4.5

ICT環境の運用



## 4.5 ICT環境の運用

### 4.5.1 ICT環境のメンテナンス・管理

日常的にICT環境を活用するためには、定期的な点検や迅速なトラブル対応が必要です。実証校でみられたICT環境のメンテナンス・管理の事例は次の表のとおりです。

観点	事例
点検	ICT支援員や業者が、定期的に接続テストをしたり、機器の点検を行ったりした。
	ICT機器の動作確認、OSやソフトウェアの更新の確認、電子黒板のフィルタなどのメンテナンス、授業支援システムの管理やデータの整理などを定期的の実施した。
	放課後や昼休みの時間などを利用し、定期的に相手校と接続し、音声テストやカメラアングルの確認、時間帯による通信状況を確認した。
設定	新しい備品やアプリケーションを導入する際には、ICT支援員が事前に設定し確認した。教員は、事前に取り扱いに関する説明を受けた。
	自動更新されるように設定されているアプリケーションは、授業中に更新してしまう場合があるため、アプリケーションの更新を手動で行うようにした。
トラブル対応	機器のトラブルや異常があれば、業者に連絡を取って対応した。
	故障が生じた時は、業者を通じてメーカーでの修理を依頼した。
	不具合が生じた時は、教育委員会に連絡した。また、使用しているアプリケーションの改善要望なども教育委員会へ連絡した。

## 4.5.2 ICT環境に関する課題と対策

実証初年度に導入されたICT環境について、遠隔合同授業の取組が進むにつれて課題が明らかになることがあります。

実証地域でみられたICTに関する主な課題と、課題を解決するための対策は次の表のとおりです。

課題がみられた箇所	課題の概要	対策
遠隔会議システム	動作が不安定で、画質の劣化や不明瞭な音声などの問題が発生する。	Web会議システム用として使っていたPCを性能の良いものに取り替えた。
マイク・スピーカー	必要な音が聞き取れなかったり、不要な音を拾いすぎたりする。	マイクを遮蔽物で囲って不要な音が入り込まないようにした。 机や椅子の足にカバーをつけるなどして、教室内の環境音を減らすようにした。
	相手校から聞こえる音が、だれのものか区別できない。	発表者や教員がマイクを持ったり、マイクの近くで話すことを意識したりして、音声に距離感をもたせた。
カメラ	教員がカメラの操作に気を取られてしまう。	リモコン操作によって、ズームやアングルを調整できるカメラを導入した。 大型ディスプレイ、カメラ、児童生徒を一直線上に配置し、カメラアングルの調整が不要なレイアウトにした。
	情報端末内蔵のカメラの画角が狭く、児童生徒の姿全体を写せない。	外付けの広角レンズを取り付け、画角を広げて写せるようにした。
ネットワーク	遠隔会議システムの接続が不安定になり、遅延が大きくなったり通信が切断されたりする。	遠隔会議システム用の回線を増設し、遠隔合同授業を行うための安定した通信速度を確保した。 LANケーブルやスイッチングハブなどを新しいものに取り替え、通信速度を向上させた。
ICT機器の配置	教員がどこを見ながら授業を進めれば良いのか迷う。	カメラの位置を教員が自校の児童生徒を見る時の視線と重なる場所に置き、同時に相手校を見ることができるようにした。
	児童生徒が授業中どこを見たら良いのか迷う。	相手校の様子を表示する大型ディスプレイと、デジタル教材を表示する大型ディスプレイを片側に寄せて、児童生徒の視線が移動しにくいようにした。

遠隔合同授業における遠隔をつないだコミュニケーションの質は、ICT機器の性能に大きく依存します。一旦導入されたICT機器を置き換えるためには多額の費用がかかる可能性があり、途中で大きな改善を行うことは困難です。導入時点で十分な検討を行い、遠隔合同授業の実施に足るICT機器を整備することが重要です。

## 4.1

遠隔合同授業を実施するためにICT環境が満たすべきポイント

## 4.2

導入する目的やコンソフトの検討

## 4.3

ICT環境導入の実際の検討項目

## 4.4

ICT機器の配置

## 4.5

ICT環境の運用

## 4.5.3 ICT環境を活用するための運用面での工夫

実証校では、ICT環境を効果的・効率的に活用するために、運用面で様々な工夫を行いました。実証校でみられたICT環境を効果的に活用するための運用面での工夫は次の表のとおりです。

項目	事例
効率的にICT環境を利用するための工夫	遠隔合同授業を行う教室や電子黒板、情報端末の予約表を作成して、機器利用の際の重複を避けた。
	自作のデジタル教材などを教員同士で共有した。
ICT機器に習熟するための工夫	ICTの操作などについてマニュアルを作成することで、だれでも簡単に操作できるようにした。
	児童生徒がICT機器の操作に慣れるため、情報端末を日常的に使用するようになった。
	業者や研究主任、外部有識者との打合せに遠隔会議システムを利用した。

**iPadの使い方 【超基礎編】**

平成27年9月28日 佐見中学校

**1 保管場所（電源ポートをごちらにして横向きに）**



**【充電方法について】**  
 バッテリーを長持ちさせるコツは、**満充電のまま放置しないこと**、と言われています。  
**90%を超えたら、充電をはずしておきましょう**。忘れそうな場合は、中島さんをお願いします。

**2 電池を長持ちさせる方法**

ホームボタンを2度押しした時に、左のように複数のアプリが起動していたら、起動しているアプリを上へスワイプ（こすり上げる）して切ります。起動しているアプリがすべてなくなり、右の写真の状態になったら、右上のボタンを押して、電源オフをします。





※授業で使うことを考え、自動ロック（何分かで画面が消えること）をしない設定にしています。よって、**右上の電源オフを忘れないように**しましょう。

上記のことは、iPhoneなど、アップル製品には、ほぼ言えることです。参考にしてください。

▲情報端末の操作マニュアルを作成

### ！ ICTに関する課題解決について

ある実証校では、画質の劣化や不明瞭な音声などの様々な問題が発生し、相手校との会話が困難になることがありました。マイクやカメラを性能の良いものに交換しましたが解決せず、学校間のネットワークも十分帯域が確保されていません。原因追求を進める中で、Web 会議システムがインストールされたPCの処理速度に問題があることが分かりました。校内にあったより高性能のPCに交換することで、高画質で音声の遅延もない遠隔合同授業を行うことができました。

このように、現れた課題に対して複数の原因が考えられるため、様々な可能性を考慮して調査を行う必要があります。



# おわりに

2年間の確かな実証に裏付けられた、遠隔合同授業に関するポイントとノウハウの宝庫とも言えるガイドブック第2版をここにお届けします。遠隔合同授業の基本的な考え方、環境整備の在り方、授業展開、単元展開、効果など、遠隔会議システム等を活用した遠隔合同授業を始めようとされている教育委員会、授業を担当される先生方が必要とされるであろう情報は、この一冊をお読みいただければ最も容易に手に入れることができます。

特に、人口減少に伴う小規模校や少人数学級が抱える、「多様な意見に触れる機会が少ない」「コミュニケーション力を育成する機会が少ない」などの課題を、遠隔会議システムや情報端末などのICT環境を活用した遠隔合同授業が、どのように解決してくれるのかが、本ガイドブックによって具体的に理解できることでしょう。

2年間の絶え間ない実証の蓄積は、従来の単発のイベント的であった遠隔合同授業を、年間を通した単元展開の中に位置づいた日常的なものへと進化させました。

遠隔合同授業の効果を期待できる、「発表や他者への説明」「議論や話し合い」「協働制作」などの学習場面が明確になってきました。

単元全体の中の、どこで遠隔合同授業を実施することが相応しいか、多くの実践の中から、ヒントがみえてきました。単元の導入段階では、「課題に対する意識を高める」「学習意欲や相手意識を高める」ために、単元の中盤では、「多様な意見や考えに触れる」「自分の考えを深める」などのために、単元の終盤では、「発表の機会」などのために遠隔合同授業が効果的なようです。

遠隔合同授業を実施するためには、両校の打合せが必要となりますが、打合せ時間を短縮できる様々な工夫もみられました。また、両校の教員間で共有しておくべき最低限の基本事項も明らかになってきました。

遠隔合同授業の質がICTの性能に大きく依存することがより明確になってきました。コストを優先しすぎないように、導入段階の機器選定時には、専門家の意見を聞いて十分に検討することが大切です。環境整備のちょっとした工夫により、やりやすくなったという事例もみられ、環境整備のノウハウの共有は、今後の展開に有益なものでしょう。

最後に、本ガイドブックへ情報を提供して下さった教育委員会と学校関係者をはじめ、ガイドブックの編集に携わって下さった方々に心からの感謝の意を表したいと思います。

いよいよ、来年度は最終年度です。さらに充実したガイドブックが完成されることを祈っています。

企画評価委員会 委員長

信州大学 学術研究院教育学系 教授 東原 義訓

## 実証地域一覧

実証事業	採択団体(実証地域)
学校教育における ICTを活用した実証事業	富山県南砺市教育委員会(南砺市)
	長野県喬木村教育委員会(喬木村)
	岐阜県教育委員会(本巣市)
	岐阜県白川町教育委員会(白川町)
	奈良県教育委員会(五條市・曽爾村・御杖村・川上村・東吉野村)
	山口県萩市教育委員会(萩市)
	徳島県三好市教育委員会(三好市)
	愛媛県西条市教育委員会(西条市)
	福岡県柳川市教育委員会(柳川市)
	長崎県教育委員会(長崎市・大村市)
	熊本県高森町教育委員会(高森町)
	鹿児島県教育委員会(徳之島町)
	人口過少地域における ICTを活用した社会教育 実証事業
島前ふるさと魅力化財団/島根県海士町教育委員会(海士町)	
NPO法人愛媛アカデミア/愛媛県松野町教育委員会(松野町)	
株式会社愛媛CATV/愛媛県愛南町教育委員会(愛南町)	
福岡地域社会教育ICT活用連携協議会/ 福岡県福岡市教育委員会・福岡県芦屋町教育委員会(福岡市・芦屋町)	

本冊子の作成に当たっては以下の委員に御協力いただきました。

「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」 企画評価委員会(敬称略、五十音順)	
寺嶋 浩介	大阪教育大学大学院連合教職実践研究科 准教授
中川 一史	放送大学教育支援センター 教授
中橋 雄	武蔵大学社会学部メディア社会学科 教授
二宮 伸司	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 社会教育調査官
東原 義訓	信州大学学術研究院教育学系 教授
藤村 裕一	鳴門教育大学大学院 准教授
山本 朋弘	鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系 講師
吉田 広毅	常葉大学教育学部初等教育課程 教授

※所属・役職は平成28年度時点

平成28年度文部科学省委託  
「人口減少社会におけるICTの活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」  
遠隔学習導入ガイドブック 第2版

[平成29年3月31日発行]

株式会社内田洋行 教育総合研究所  
〒104-8282 東京都中央区新川2-4-7